

<連載(113)>

## カーフェリー基地として躍進する室蘭



大阪府立大学海洋システム工学科教授

池田良穂

**北海道の**室蘭には天然の良港があり、古くから臨海工業地帯が発展して、特に鉄鋼の町として有名である。また、港は石炭の積み出し港としても栄えた。しかし、今では石炭の積み出しはなくなり、鉄鋼業にもかつての勢いはない。港もプライベートバスが多いこともあって、港の大きさの割に公共バスが少なく、一般雑貨等の取り扱い量は隣接の苫小牧港に大きく水を開けられている。

筆者は、3才から18才まで、この港町室蘭で暮した。その縁もあって、昨年からは室蘭市の企業誘致委員という役割を担うこととなった。室蘭をかつてのような活気に溢れた町に蘇らせるためのお手伝いをするということであり、たいへん名誉なことであると同時に、若い時代にお世話になった町への恩返しもできると大いに張り切っている次第である。

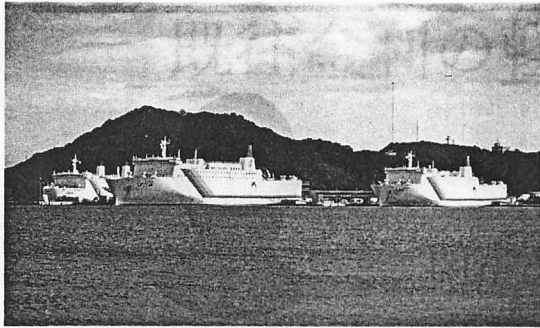
なにはともあれ、室蘭の現状を一度この目で見ておく必要がある。もうかれこれ7~8年ほど御無沙汰をしているので、現状もかなり変化しているに違いない。そういう訳で、

昨年秋に室蘭に向った。

**北海道の**空の玄関口である千歳空港からは、列車を利用しても、また高速道路も開通しているので車を利用しても、到着後1時間強ほどの時間で室蘭に入ることができる。陸上のアクセスについては見違えるほどに完備されて、ずいぶん便利になったものだ。高速道路の室蘭のインターチェンジの付近には工業団地も造られ、新しいタイプの企業が活動をはじめている。

また、この近くには住宅地も造成されており、東京等に比べるとべらぼうに安い地価のせいもあって、首都圏の人が別荘として居を構える例も少なくないという。海の幸、山の幸等の新鮮な食材に恵まれ、港にはヨットハーバーが整備され、さらに有名な温泉地登別も目と鼻の先。ロケーションとしては申し分ない。北海道の中では、珍しいほどに雪も少ないし、比較的温暖な気候である。

港を訪問すると、かつての石炭埠頭は広大



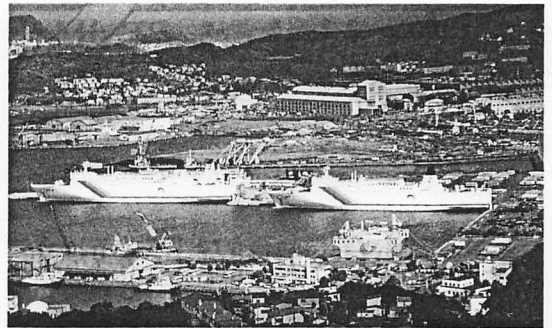
室蘭のフェリーターミナルに並ぶ大型カーフェリー

なカーフェリー基地に変身している。ここからは、関東地方には大洗への航路、東北地方には八戸、青森、大畑への航路、北陸地方には直江津への航路が開設されており、連日たくさんの大型カーフェリーが出入りしている。遭航するのは東日本フェリーで、北海道に本拠地を置くカーフェリー界の大手会社である。

また、公共バスには、最近コンテナクレーンも設置され、コンテナ船の定期航路はまだ開設されていないものの、コンテナ貨物の受入れも迅速にできる体制が整っている。

以上のように、海から、陸上から、さらに空からのすべてのアクセスが完備されているから、交通、物流の面では問題がない。さらに、室蘭の港の入口には白馬大橋が建設中で、今年の夏には開通の予定になっている。この橋によって、室蘭市内の循環道路が完成することとなり、交通事情はさらによくなる。

**鉄鋼の町**としての歴史が長いこともあつ



室蘭港／中央にフェリーターミナルが、背後には日本製鋼所の敷地が見える

て、工業基盤はしっかりしており、技術者の層も厚い。新しいタイプの製造業を始めるにはなかなかの適地と言えそうである。

それではどのような産業が適当なのであるうか。電子情報関係、航空宇宙関係などの先端産業の誘致も必要であろうが、これは日本中の地方自治体が誘致に必死になっているからなかなか難しそうであるし、筆者とは専門違いである。やはり、室蘭としての長年にわたってポテンシャルを蓄えてきた分野の方が可能性が大きそうである。すなわち、金属加工や、港、海に関連する産業である。サハリンでの海洋油田の開発をはじめ、ベーリング海、オホーツク海、日本海での海洋開発は将来的に有望と考えられるから、イギリスの北海油田の基地として繁栄しているアバティーンのように、海洋構造物の建造や補修基地として大きな産業が花開く可能性もある。この場合には、既存の鉄鋼業が中心的な役割を演じることとなろう。

もうひとつは、新しい造船業の創造である。現在、世界的な規模でアルミ船が急速に

数を増している。これは、リサイクル可能な地球に優しい素材としてアルミニウムが見直されているからであるが、世界一の造船国であってもアルミ船の建造分野では、他の国にかなりの遅れをとっている。

筆者は、アルミ製高速カーフェリーのトップメーカーとして有名なオーストラリアのインキャット造船所を2回訪問しているが、現在では、大型の超高速カーフェリーの連続建造を行って、世界中にアルミ高速船を売りまくっている。このインキャット社のあるタスマニアと室蘭は、気候、立地条件等非常によく似ており、このような新しいタイプの造船業が花開かないものかと思う。最近、函館どっくの室蘭工場が閉鎖され、その跡地は新しい造船業を始めるには最適である。日本においても、「ゆにこん」、「シーバード」等の高速カーフェリーが続々と登場しはじめており、

やがては日本各地で運航されるようになるに違いない。これらの船が、1つの新しい工場連続建造されれば、効率も上がり、競争力も向上しよう。そんな夢をどなたか適えてくれる所はありませんか？もちろん海外からでも大歓迎とのこと。

最後に、宣伝になってしまいますが、高速カーフェリーの話をはじめとしてカーフェリーと客船の情報を満載した「フェリー・客船情報'98」をこのほど発行しました。内容については、次ページの案内をご参照下さい。ご希望の方はぜひご購入頂ければ幸いです。一般書店では扱っておりませんので、出版所（「船と港」編集室）に直接お申込み頂くか、東京の飯野ビル地階のツキヂ書店、神戸の元町商店街の海文堂書店にて御購入下さい。

